

How to...

「女子・キャリア形成」

安心・安全な海外キャンパスを基点に
語学力と積極的な態度を育成

昭和女子大学

***実就職率で6年連続女子大トップ**を走る昭和女子大学は
語学力と海外体験の重要性に早くから気づき、海外キャンパスを展開。
グローバル人材育成に向けた堅実な取り組みを加速させている。

昭和ボストン留学で 充実したプログラム

グローバル人材とは、英語が話せる人と同義ではありません。英語はあくまでもツールであり、それを使いこなして、物事を企画し、周囲に働きかけて結果を出す人が、グローバル人材だと考えています。しかも、その能力をビジネスの成功や個人の利益獲得のみに使うのではなく、その地域や社会の発展に貢献できる人でなければ、グローバル人材とは呼べません。本学のグローバル人材育成は、こうした観点に立っています。

最大の特色は、海外キャンパスである昭和ボストンを基点に、充実した語学プログラムや海外交流プログラムを展開していることです。1988年に設置した昭和ボ

ストンは、17ヘクタールの土地に、300人収容のドミトリリーを含め、大学に求められるプール、講堂等の教育設備を備えた本格的なキャンパスです。

当初は、女子学生が安全に異文化を経験できる場として、昭和ボストンを活用していました。しかし、近年は体験にとどまらずにしっかりとした教育の成果が得られるよう、安全・安心な環境は維持しつつ、英語力の向上に力点を置いた教育プログラムに重点を置くようにしました。その結果、ボストンに留学した学生は、TOEICスコアを1セメスター平均で100点アップさせています。なかには380点から950点まで伸ばした学生もいます。通常の学費に加えて、留学費用はかかりますが、経済的な支援制



理事長・総長 **坂東 眞理子**

ばんどうまりこ●1969年東京大学卒。総理府(後の内閣府)に入府し、内閣総理大臣官房参事官を経て、1995年埼玉県副知事。1998年在オーストラリア連邦ブリスベン総領事、2001年内閣府男女共同参画局長。2004年昭和女子大学女性文化研究所所長、2007年学長(2016年3月まで)、2014年理事長、2016年より現職。

在学中、5人に1人が 海外プログラムに参加

度も導入していますし、何よりも確実に語学力を伸ばせる昭和ボストンの存在は、受験生や保護者が大学を選択する際の大きなアピールポイントになっているのです。

国際系の学科である英語コミュニケーション学科、国際学科、ビジネスデザイン学科では、昭和ボストンへの1セメスターの留学が必須です。徹底した英語教育に加え、ビジネスデザイン学科では

ハーバードビジネススクールの教員から、ビジネスの基本を英語で学ぶなど、学科の特性に合わせた授業を行っています。英語コミュニケーション学科の場合は、2、3セメスターのプログラムも用意されており、語学力が一定の水準に達すれば、第2セメスター以降は、近隣の大学で語学以外の科目を科目履修生として受講することが可能です。

この3学科以外の学生は、希望により昭和ボストンのサマーセッションに参加することができま

*サンデー毎日2016年7月31日号「全国240大学実就職率ランキング」

取材・文／仲谷宏 撮影／柳田隆司



昭和女子大学

- ▶1920年、「日本女子高等学院」創立。▶4学部12学科。学生数は約5500人
- ▶専門分野の深い知識に加え、社会リーダーとして活躍するための幅広い力の育成を重視

昭和女子大学 グローバルビジネス学部の4年間のグローバル人材育成計画

	1年	2年		3年	4年	めざす 人材像
	国内	昭和ボストン	国内	国内	国内	
語学	ボストン留学に必要な英語力を学ぶ ・Integrated English Course ・Introduction to Business English ・Basic English	・Intensive Business English Course ・Communication Skills ・Business Writing	Business English 英語でビジネスの専門科目を学ぶ			
ビジネス スキル	グローバルビジネス基礎演習、 ビジネスコンピューティング入門、 産業の分析 / 成長企業の強み、 女性のキャリア形成とビジネス	・Leadership Development Course	ビジネスコンピューティングI・II、 調査の手法とビジネス統計、 コミュニティ・サービス・ラーニング、 論理的思考とプレゼンテーション、 インターンシップ		・ビジネス研究 (ケーススタディ) ・卒論プロジェクト (ゼミ)	
専門	・マーケティング論 ・組織とマネジメント、ビジネスと法務 ・ビジネスと会計 ・世界の経済事情 ・経済学の理論、日本経済論	1年次に学んだビジネス の基盤を英語で学ぶ Principles of Marketingなど	ビジネス戦略論、現代の企業組織、 企業の財務と情報公開、 グローバル発想とリーダーシップ、 国際経済論など			

えて、学科の教育内容に合わせた体験プログラムなどが用意されており、自分の関心の高い領域で幅広い視野を獲得することができま

す。また、本学は海外25大学と協定を結んでいるため、長期休暇を利用した各種の海外研修プログラムに参加することも可能です。

こうした経験を経て、協定校を中心とした海外の大学への正式な留学に進む学生も増えています。

さらに認定留学の一環として、ダブルディグリー制度も拡充されています。たとえば中国の名門校である上海交通大学とは2年前から協定を結んでおり、中国語をゼロから勉強し始めた学生が、本学と同大学の両方の学位の取得をめざして学んでいます。このほか、韓国のソウル女子大学との間でもダブルディグリー協定を結んでいます。

本学の学生数は約5500人です。毎年、約1000人が海外プログラムに参加しており、5人に1人が海外で学んでいることになります。

入学後の海外でのプログラムだけでなく、英語コミュニケーション能力に秀でた人向けの「グローバル入試」も導入しています。グローバルビジネス学部での募集はありませんが、GTCCBT

やTOEICなどの英語能力検定試験で一定以上のスコアがあることが出願条件となっています。

国際学部を新設し 教育の方向性を明確化

昭和ボストンを中心とした語学教育プログラムや、協定校との多文化協働プログラムなどを中心にした国際交流教育への取り組みは、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」にも採択され、大きな成果をあげています。採択期間は今年度で終了しますが、ダブルディグリー制度や、海外の学生と英語による講義や討議を行うサマープログラムなどは今後も継続し、本学学生の海外への飛翔の窓口をできるだけ拡大したいと考えています。

2017年度からは、英語コミュニケーション学科と国際学科を人間文化学部から独立させ、国際学部改組します。英語コミュニケーション学科は、英語運用能力向上に特化した学科として、国際学科は英語に加え、アジア言語を中心とするもう1つの外国語の修得をめざす学科として明確に特徴づけることで、留学必須学部としての特色を打ち出していきます。

成果

- ▶昭和ボストン留学で、TOEICスコア100点アップ
- ▶積極的な学生が増加

課題

- ▶留学前の語学力の底上げ
- ▶留学後の語学力の維持向上